

●A 級ジェネラル概要

第4コース インストラクター：松田浩、鈴木淳 会場：J-GREEN 堺

日程：前期 4月24日～29日、中期 6月26日～7月1日、後期 11月11日～16日

参加者：29名（後期は30名）

指導チーム：1種4名（Jクラブ2名、社会人1名、大学1名）、2種11名（高校9名、Jユース2名）、3種7名（中学校2名、クラブ5名）、4種5人（クラブ5名）、女子2名（高校1名、JFAアカデミー1名）

- ・講習会の内容及び指導対象はプロ以外のチーム、プレーヤーでチーム戦術が中心となる。
- ・自分のサッカー観を築くための基本（意図的な戦術行動を取らせる）を構築する。
- ・明確なコンセプトを持つ（前期）、コンセプトを明確に伝える（中期）、コンセプトの完成を目指す（後期）

●指導実践

- ・8vs8～11vs11の中でテーマに対するコンセプトを落とし込む（Tr1→ Tr2→game）
- ・テーマ理解…前提条件（現象を出すために非改善チームの設定）、具体的方策（どのように攻め、どのように守るか）、基準の提示→ジャッジ（良い：誉める、悪い：要修正）
- ・Tr1では反復を多く基礎的な部分（クラリティ）と、個人戦術（パススピード、コントロールの質、体の向き等）のところを落とし込む、Tr2はチーム全体の動きを落とし込む（リアリティ）。
- ・改善チームと非改善チームのパワーバランスを見ること（いい攻撃のトレーニングをするためにはいい守備の構築が必要）。

●コーチング

- ・フリーズとシンクロのバランス（intensityを保つ）
- ・修正した後のジャッジ
- ・質の追求、観ることへの働きかけ
- ・正確なロールバック

●自分の気づきと課題

- ・自分のサッカー観、コンセプトとは？を考える良い機会となった。
- ・一人一人に役割を与えることの難しさ（サッカーを知っていて尚且つ全体を観ていないとできない）
- ・A級では自分が求めるもの（やるべきこと、やってはいけないこと）を明確に示す。個人戦術やチーム戦術の中ではっきりしていなかったものが、講習会を通して攻撃守備の部分的ではあるが明確にできた。
- ・コーチングはほぼシンクロ。フリーズはQuick、Simple、To the pointで。受講生全体的に現象の部分だけでなく、他のケースにまで触れて説明が長くなり、フリーズした直接の原因まで呆けてしまうことが多かった。私自身も指導実践の最後までインストラクターから指摘された部分であった。
- ・実技力も必要で、ゲームが非常に多く体への負担がとても大きい（実際に鎖骨やアキレス腱の怪我があり）のでコンディションを整えて置くことが重要。
- ・オフザボールを見ることの習慣化→オフを改善することによってオンで優位になれる。
- ・戦術行動に移るタイミング、スイッチがない。どこでプレッシャーに行くか、ボールを奪うか、タイミング、場所、状況が明確でない。プレー基準の提示（いつ、どこで、誰が、どのように）がないとコンセプトを持っていたとしてもチーム全体に落とし込むことができない。
- ・指導者のアピランスの重要性を再確認した。元気が良くてトレーニング自体に活気がある。選手が楽しそうに練習している。姿勢が前向きで選手のモチベーションを上げられる指導者でありたい。
- ・プレゼン実習…A級のテーマについて映像を含めてパワーポイントでプレゼンを行う。映像処理の技術、テーマ理解、論理性、言語明確性が求められた。
- ・年齢的に30代中盤～後半の受講生が多かった。テーマに沿って全体（ゲーム）を見ることでサッカーが整理されるし、高い志を持った受講生とのディスカッションもすごく自分自身の刺激になった。若手の指導者がA級受講にチャレンジすべきだと感じた。